

総合診療室（総診）を経験して

総合診療室を経験して

歯学科6年 滝沢 可奈子



昨年の10月に緊張しながら初めて患者様の診療を始めはや9ヶ月。月日が経つのは早いもので、梅雨明けとともに鳴きだした蟬の声に更に暑さを覚える時期となり、臨床実習も残り

数ヶ月となりました。

何をされても文句を言わない模型と違い、臨床実習で担当させて頂く患者様は千差万別で、責任をもって患者様を第一に考えた最良の治療を行わなければなりません。ライターの方にアドバイスを頂きながら、治療計画を立て、十分予習をして診療に臨むのですが、技術や知識不足のために失敗もあり、ご迷惑をおかけしたこともありました。至らない自分に苛立ち、不安や焦りも感じますが、診療後に「ありがとうございました。」と患者様に言って頂く度に、感謝の気持ちとともに、もっと良い治療がしたい、至らないところはなおしていこう、と決意を新たにしています。一方、患者様は苦痛だけでなく喜びも感じてくださいます。初めて上下の全部床義歯を製作した際に、「何でも食べられるようになりましたよ。ありがとうございます。」と、患者様からお礼を言われた時はとても嬉しくて、達成感とともに、やりがいを感じました。このように学生でありながら患者様の診療に携われることのできる恵まれた環境の中で、診療技術だけでなく、患者様と直に関わることでコミュニケーションの大切さも学ぶことができ、人格的にも成長できたのではと思います。今後もこの体験を生かしながら、おいしく食べるという患者様の喜びのお手伝いができるよう、そして患者様の信頼に足りうる歯科医師になれるよう、日々努力し

ていきたいと思います。

最後になりましたが、未熟な私の診療を快く受け、勉強させてくださっている患者様、熱心に指導し、時に厳しく自分で考えることを教えてくださるライターの先生方、遅くまで技工物製作に付き合ってくださいる技工士の先生方、診療を手助けしてくださる看護師、衛生士の方々、ともに成長してきた同級生他、お世話になったすべての方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

総合診療室（総診）を経験して

歯学科6年 水木 麗奈



こんにちは。歯学科6年のチョコレート大好きな水木です。

ポリクリの時、総診で先輩が実際に診療している姿を見て、自分は本当に出来るのだろうか友人と話し

ていたのを覚えています。それから数カ月後、実際に患者様を引き継ぎ、いつの間にか臨床実習もあとわずかとなりました。

総診での実習は、毎日が初めてのことばかりで緊張と反省の連続です。診療が終わるとどっと疲れ、先生を探したり係の仕事をしたり技工があったりで、気がつくとも外が暗くなっていることもありました。本当にあっという間に時が過ぎたなあと驚いています。びっくりびっくり。

先輩や同級生たちには分からないことを聞き、たまには自分も教えたりして（私は教えてもらう方が多かったですが。）、協力して実習を進めていきました。

ライターの先生には、時には怒られながらも熱心に指導していただきました。本当の患者様に対

面できるということで、責任感や緊張感が5年生までの実習とは全く異なります。患者様にご迷惑をかけないよう真剣に予習をし、頭の中でイメージしてから診療に臨むのですが、それでも緊張や焦りで戸惑うことも沢山ありました。そのような時もライターの先生にアドバイスしていただき、大変勉強になりました。その場その場で頭を働かせて判断し、臨機応変に対応していく力を身につけなければと感じました。ちょっとはついたかなあ。

また、技工士の先生には迷惑と分かりつつも、つつい甘えてしまいました。同じ人間とは思えないくらいの素晴らしい技術で、いつも助けてくださいました。たくさんの人たちに支えられた実習だったとつくづく感じています。

患者様も本当にいい方ばかりで、感謝の気持ちでいっぱいです。診療が終わるといつも「頑張つてね!」、予約の電話をしたときも「頑張つてね!」と言ってくださる人、根治しないことになった患者様は「治療できなくて残念だったね、練習台になれたのに。」なんておっしゃってくださいました。うまくいかなくて落ち込むこともたくさんありましたが、患者様の「口のなかがすっきりして気持ちいい」や、「本当にありがとうございました」などという言葉に支えられて励まされ、辛いことも乗り切ることができたんだと思います。

最後に、学生が自主性を持って、実際の治療ができるという貴重な機会を与えてくださる患者様たち、諸先生方に感謝するとともに、この気持ちをこれからもずっと忘れずに成長していかなくてはと感じています。これまで学んできた知識や技術をしっかり身につけ、今後さらに多くの患者様に本当の意味で「ありがとう」と言われるような歯科医師になれるよう頑張ります。

総合診療室（総診）を経験して

歯学科6年 山村伸一



2007年10月より総診での診療がはじまりました。5年までに勉強した知識、5年でのポリクリにより体験した友達を通しての実習、この経験値で行われる本当の患者様での臨床実習です。どうなるのか想像もできませんでした。漠然と怖いな、という感情であふれていました。実際始まってみると技工物やレポートがあり、19時まで学校にのこることも多く、また診療というプレッシャーもあり、6年は大変な学年でしたが、それだけやり応えのある学年でもありました。そしてあっというまに1年がたちました。

講義では単科ごとの内容でした。しかし、当たり前のことを言うと、患者様は一通りではないということです。歯周病の患者様がいて、むし歯の患者様がいて、歯がない患者様がいます。そして、多くの場合それらが重なり合っています。今、この患者様に一番やらなくてはいけないことはなんなのか、本当にこの処置を後回しにしてもいいのか、などいろいろなことを考えます。十人十色な症状の患者様に対して、当日の担当ライターや主治医の指導のもと、治療させていただきました。多数の症状が重なった場合、なぜ今その歯を優先したのか、なぜその処置を先に行ったのかななどを、先生方の助言の元で行ってきました。手技の実践、患者様とのコミュニケーションのとり方だけではなく、自分で診断と判断ができるよう、勉強と努力をしていかなくてはいけないと学ぶことができました。そして‘総合’診療室での経験によっていろいろな科の内容をやらせていただくことができ、そこでまた自分の興味をひく科があったりして、将来どの科を専門に勉強したいかを考えることもできました。

総診における臨床実習の経験値は、研修医になったときにスムーズに研修に入れる、すごく大きな自分の財産になると思っています。学生時代

から患者様と対面させていただくことで、短い研修医期間を濃い内容にできると思います。

総診で支えてくださった多くの先生方と友人、

そして学生に診療の機会をもたせてくださった多くの患者様に、ありがとうございますの気持ちでいっぱいです。

